

週刊

GAINAX総監修ビジュアル・ガイドブック

新訂版

EVANGELION

CHRONICLE

エヴァンゲリオン・クロニクル

07

定価 **690円**(税込)

2010/3/23

Mechanic Sheet

第4使徒シャムシエル

14式大型移動指揮車

Character Sheet

伊吹マヤ

人類補完委員会

Tactics Sheet

二点同時
過重攻撃作戦

Timeline Sheet

レイ、心のむこうに

Technology Sheet

ボジロンライフル

Extra Sheet

用語辞典／企画書／トピックス



**特製バインダー
発売中!**

DAGOSTINI

deagostini.jp

EVANGELION

CHRONICLE

07 目次 CONTENTS

【発行日】 2010年3月23日
 【発行】 株式会社デアゴスティーニ・ジャパン
 〒104-0045
 東京都中央区築地4-7-5 築地KYビル
 【発行人】 小河原和世
 【編集人】 クロス中山肇子
 【チーフエディター】 安部 翠
 【印刷】 大日本印刷株式会社
 ©2010 K.K.DeAgostini Japan All rights reserved.
 【編集協力】 株式会社ウィーブ（石川裕人/田代 薫/久保圭/本多ら）
 【監修】 株式会社ガイナックス
 ©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラー/EVA製作委員会
 <オリジナル版>
 【編集協力】 有限会社 メガロマニア（富田英樹/高村幸枝/逢澤洋三/
 加藤和弘/山田屋寛/桑木貴章/鈴木秀治/公森直樹）
 【執筆】 TRAP（西川紗矢/遠藤智子/種子島貴
 【イラスト】 市川裕文/深野洋一(M.L.G.)/本下とむたけ/
 野尾卓弥/織沼安希雄
 【デザイン】 ローカル・サポート・デパートメント(島田英明/角田正明)
 株式会社 インフォビジョン(河野幹哉/安川純史/阿部将之)

<新訂版>
 【編集協力】 スタジオ・ハードデラックス株式会社(伊藤雅香/米良真一)
 【デザイン】 スタジオ・ハードデラックス株式会社(松本優典)

- 書店向け注文センター
 (書店様からのご注文を承ります)
 ☎ 03-5212-5311
 (月～金 9:30～17:30 土日祝日を除く)
 ☎ 03-5212-5312
- 読者サービスセンター
 (本誌関連の一般的な質問を承ります)
 ☎ 0570-008-109
 (月～金 10:00～18:00 土日祝日を除く)

※本商品は2006年に刊行された「エヴァンゲリオン・クロニクル」
 (発売：ソニー・マガジンス)に改訂を加えて刊行するものです。

本誌の最新情報をCheck!

PCからもケータイからも同じアドレスでアクセスできます。
<http://deagostini.jp/eva/>



Mechanic Sheet メカニックシート

第4使徒シャムシエル 01-04

14式大型移動指揮車 09-10

Character Sheet キャラクターシート

05-08 **伊吹マヤ**

11-12 **人類補完委員会**

Timeline Sheet タイムラインシート

レイ、心のもこうに 13-16

Tactics Sheet タクティクスシート

17-20 **二点同時過重攻撃作戦**

Technology Sheet テクノロジーシート

ポジットロライフル 21-22

Extra Sheet エクストラシート

23-24 **用語辞典**

25-28 **企画書**

29-32 **トピックス**

新世紀エヴァンゲリオン オフィシャルページ

エヴァンゲリオンのリアルタイム情報はこちら!

PCサイト

http://www.gainax.co.jp/animeweb/

携帯サイト http://npg.jp/eva/ ココからGO!

エヴァンゲリオン オフィシャルストア

http://www.evastore.jp/

定期購読のご案内

週刊「エヴァンゲリオン・クロニクル 新訂版」は、毎週火曜日発売です(一部地域を除く)。シリーズ番号が確実にお手元に届くように、書店を通じての定期購読をお勧めいたします。最寄りの書店で、定期購読または予約購読をご用命ください。また、小社を通じての定期購読を希望される方は、次のいずれかの方法でお申し込みください。

1. 読者専用定期購読受注センターに電話またはFAXで
 ☎ 0120-300-851
 (9:00～21:00 年中無休)
 ☎ 0120-834-353
 (定期購読申し込み用紙をお送りください。24時間受付)
2. インターネットで
<http://deagostini.jp/eva/> (24時間受付)
 ※ケータイからも同じアドレスでアクセスできます。
3. 定期購読申し込み用紙を郵送
 (『定期購読のお知らせ』がお手元ない場合は受注センターまでご連絡ください。)

特製バインダー発売中!!

週刊「エヴァンゲリオン・クロニクル 新訂版」は特製バインダー4冊に収まります。エヴァンゲリオン大百科を完成させるのに不可欠な特製バインダー2・3巻の2冊セットを割引特別価格990円(税込)で発売しております。お近くの書店でお求めください。



※新刊特別価格は2010年6月末までの期間限定となります。それ以降は通常価格1,290円(税込)となります。
 ※4巻目のバインダーは3月号でプレゼントいたします。

下記URLをクリックしてページに移動し、右上の「お申し込み」をクリックしてページを開いてください。
 1. 購入希望の巻数を選択し、送料の目安と送料、お届け先、お届けの時期を入力してご注文ください。
 2. 送料の目安と送料の目安を選択し、送料の目安と送料、お届け先、お届けの時期を入力してご注文ください。
 3. 送料の目安と送料の目安を選択し、送料の目安と送料、お届け先、お届けの時期を入力してご注文ください。
 4. 送料の目安と送料の目安を選択し、送料の目安と送料、お届け先、お届けの時期を入力してご注文ください。
 5. 送料の目安と送料の目安を選択し、送料の目安と送料、お届け先、お届けの時期を入力してご注文ください。
 6. 送料の目安と送料の目安を選択し、送料の目安と送料、お届け先、お届けの時期を入力してご注文ください。

※お問い合わせ先: 株式会社デアゴスティーニ・ジャパン 〒104-0045 東京都中央区築地4-7-5 築地KYビル
 電話: 03-5212-5311(受付時間: 月～金 9:30～17:30) 03-5212-5312(受付時間: 月～金 10:00～18:00) 0570-008-109(受付時間: 月～金 10:00～18:00) 03-5212-5311(受付時間: 月～金 9:30～17:30) 03-5212-5312(受付時間: 月～金 10:00～18:00) 0570-008-109(受付時間: 月～金 10:00～18:00)
 ※お問い合わせ先: 株式会社デアゴスティーニ・ジャパン 〒104-0045 東京都中央区築地4-7-5 築地KYビル
 電話: 03-5212-5311(受付時間: 月～金 9:30～17:30) 03-5212-5312(受付時間: 月～金 10:00～18:00) 0570-008-109(受付時間: 月～金 10:00～18:00)

第4使徒

ヤムシエル



シ



自在に触手を操る

異形の使徒



FOURTH ANGEL

SHAMSHEL

Illustration by Hisayuki Ichikawa

未熟な操縦者を倒しきれなかった使徒

人類を脅かす使徒と呼称される敵性体。様々な特殊能力を持つ使徒の中でも、シャムシエルは直接的な攻撃を仕掛ける単純な“力押し”タイプといえる。リーチが長いとはいえあくまでも接近戦用の光の触手しか攻撃手段を持たず、状況に応じて形態を移行させる能力も脅威とは言い難い。飛び抜けた戦闘能力を持たないシャムシエルがEVAを圧倒できたのは、ひとえにEVA操縦者の練度及び士気の低さのためだったことは間違いないであろう。

シャムシエルは迎撃システムをものともせず、第3新東京市へと侵入を果たす。そこで迎撃に出たEVA初号機と交戦し、操縦者に成り立ての碇シンジを追い詰める。しかし、丘陵地帯に戦場を移したのち、同機から捨て身の反撃をコアに受けて活動を停止、半ば相打ちのようなかたちで殲滅された。

ヘブライ神話においては、エデンの園、第四天の支配者であり、昼を司る天使の王子の名を冠されているシャムシエル。かの天使の時間帯といえる日中に侵攻し、初号機を圧倒したものの、日没間近の夕暮れ刻に殲滅されたのは皮肉といえるだろう。

国連やNERVの警戒網に捕まらないうつめにか、レーダーに発見されにくい超低空を移動して第3新東京市へと内陸したシャムシエル。



丘陵地帯において戦場に巻き込まれたシンジのクラスメイト。彼らの存在がシャムシエルの敗北を決した一因といえるかもしれない。



弱点であるコアを的確に破壊され、活動を停止したシャムシエル。原形を留めたまま殲滅され、人類に貴重なサンプルを提供した。

DATA

呼称: 4th ANGEL

第4使徒

天使名: SHAMSHEL

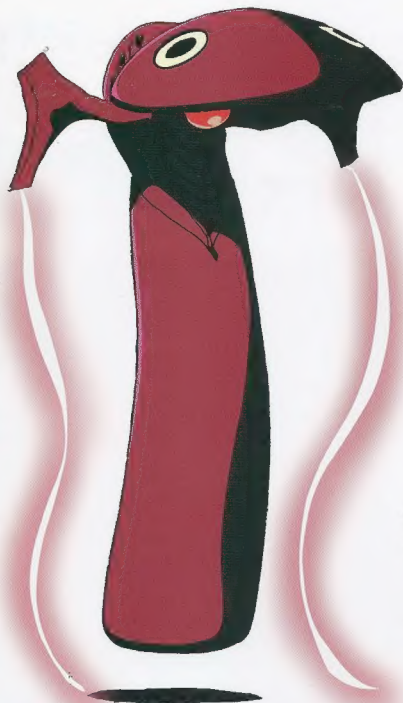
シャムシエル

象徴: SYMBOL

昼

能力: ABILITY

光の触手
形態移行



こっちの都合はおかまいなしか。
女性に嫌われるタイプね

(葛城ミサト)

戦闘形態 COMBAT MODE



飛行形態 FLIGHT MODE

関連事項 RELATED INFORMATION

- 第2次直上会戦
- 使徒
- 相田ケンスケ
- 鈴原トウジ



第2次直上会戦と通称されたシャムシエル戦。第3新東京市における2度目の使徒戦だが、決着は郊外の丘陵地で着いた。

シャムシエルの体構造

異形ぞろいの使徒の中でも、特に異彩を放つ生物的な外見を持つ。毒々しい体色や胸部の筋足など、視覚的な嫌悪感をもたらす容姿は外敵への備えといえるかもしれない。また、背部には呼吸孔と思われる部位が左右に4対見られる。このことから、第3使徒サキエルと同様に、シャムシエルも呼吸によって活動を維持(または補助)しているのではと推測される。

1 頭部と思しき部位

目玉模様は顔筋を連想させる。これは天敵の鳥類を遠ざけるために蛇などが備えていることが多い。使徒の外敵は人類、ヒトに対する威嚇を意味するものかもしれない。



蛇が顔筋をもつのはよく知られた動物の警戒行動である。シャムシエルの顔筋も、蛇の顔筋に似ている。



1本脚(もしくは遠くにも見える薄脚の脚)。戦闘形態では、第2使徒と異なる左右4対の脚が折り畳まれるように収納される。



2 胸部と思しき部位とコア

エビの腹脚に類似した器官を持ち、その先端に老き位置のコアがある。なお、移動は浮遊で行う。そのため、自重を支えるには強度不足であろう胸で直に地面を歩くことはなく、主に自重が減輕される水中で使用されるのではと思われる。



戦闘形態ではコアを露にさらけ出すことになり、敵北につながらず。

3 光の触手

常に動き続ける伸縮自在の触手。握った初号機の手が抜けただけであり、高熱を発生した触手をそれを振るる運動エネルギーによって対象を切断しているとも考えられるが、詳細は不明。



“打つ”打撃攻撃でも、鋭利な刃のように切り裂く武器としても用いられ、ビルをも寸断する鋭さを持つ。



巻き付けた“掴む”動作も可能な器用さを持ち得ている上、触手一本で初号機を投げ飛ばす怪力も持つ。

シャムシエルの飛行形態

移動主体のときは飛行形態となるシャムシエル。腕と脚のための白兵戦闘力だけでなく、速やかに目的地に移動する飛行能力を兼ね備えており、形態の移行により使い分ける。なお、触手を展開して飛行する半戦闘形態も確認されている。



シャムシエルの活動記録

サキエルとの戦闘から3週間を経て甦来したシャムシエル。使徒に対する対空迎撃は功を奏さず、易々と第3新東京市へと侵入する。初号機により先制を受けるが、操縦者となって間もなく満足に戦えぬシンジを圧倒。アンビカル・ケーブルの切断により内蔵電源で稼働する初号機を丘陵地帯に投げ飛ばす。これは予備電源を装着させないために都市部から遠ざけたとも考えられよう。その際、戦闘に巻き込まれた一般人をエントープラグ内に緊急避難させる初号機。その後、同機の無謀極まりない突撃を制して腹部を挟むが、執念の一撃にコアを貫かれて殲滅された。



相打ちにより、触手で腹部を貫かれた初号機。しかし、同機の一撃はシャムシエルのコアを貫けており、断肢は幸うじて初号機に重配が上がった。



特記事項

サンプルをもたらした初の使徒

原形をほぼ留めたまま回収されたシャムシエルは、NERVにとって格好の研究材料となった。この解析の結果は、S機関の復元、それを搭載したEVAシリーズの建造などへとつながってゆく。

項目	解析結果
コア	NERVのS機関の復元に必要な材料と判明。
触手	高熱を発生させる能力を持つ。
飛行形態	アンビカル・ケーブルの切断により内蔵電源で稼働する。
腹部	執念の一撃にコアを貫かれて殲滅された。

シャムシエルの残骸を分析した結果、ほとんどが解析不能の中、構成材質の違いはあった。従来の残骸の重量と同等(約198.89t)のものも一致していることが判明した。

解析現場には、葛城ミサトやシンジのほかにも破防ドゥと冬月コウゾウが視察に訪れていた。彼らが興味を示したのは使徒のコア部分であり、直接触れて確認している。



シャムシエルの残骸、もしくは解析情報によるものかは不明だが、NERVのS機関の元にも成功。しかし、その残骸を調査しよりアメリカの第2支部が消滅してしまふ。

シャムシエル侵攻記録

- 領海に侵入
- 真鶴方面より侵攻
- 対空迎撃を無傷で突破
- 第3新東京市に到達
- 初号機と交戦
- 移行
- 戦場が丘陵地帯に
- シャムシエル殲滅



キャラクターシート

Character Sheet

伊吹マヤ

Sheet

13

MAYA IBUKI



憧れの上司を
支援する



NERV



伊吹マヤ

MAYA IBUKI

潔癖かつ
謹直な女性



● 個人情報

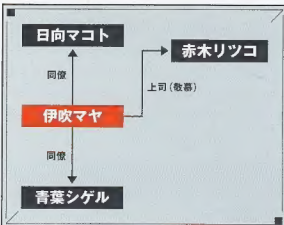
名前	伊吹マヤ
年齢	24歳
国籍	日本
生年月日	A.D.1991/7/11
血液型	A型
所属	NERV/技術開発部技術員一課

技術員一課に所属する二尉、伊吹マヤ。彼女は大学を卒業すると同時にNERVに入所し、その後赤木リツコ直属の部下として、使徒使戦略の骨子となる「E計画」に携わることとなる。EVAについての程度の実事を知らされていたのかは不明だが、仮にすべての真実を知っていたとしたら、凛冽な性格の彼女がEVAの存在を許容できるとは考え難い。

彼女の主な職務はリツコの補佐だが、使徒襲撃の際には、NERV本部中央作戦司令室のオペレーター席において、日向マコト、青葉シゲルと共にオペレーティング任務に従事。EVA操縦者のシンク率等をモニターし、情報の収集、分析を担当することとなる。また、非常に仕事熱心な女性で、デスクを離れるときもノートパソコンを手にしている場合が多い。EVA初号機が覚醒し、使徒よりS機関を取り込んだ際も、誰もが無動としている中、冷静にはいかならないまでも彼女だけが自らの任務を続行。EVAのシンク率を分析した上で報告していた。ちなみにあまり表に出ることはないが、リツコにより直接教授された技術を誇る、優秀なプログラマーとしての一面も持っている。

使徒殲滅作戦を計画し指示を出すミサトや、直接的にEVAの建造に関わるリツコらのように組織における重要なポジションに位置せず、目立つ仕事をしてはいないマヤ。ただ、彼女のような存在がいなくては、そういった重要な計画を円滑に遂行することは困難を極める。そういった意味で、NERVに欠かすことのできない人材であるといえるだろう。

● 人物相関図



- 赤木リツコ
- 日向マコト
- 青葉シゲル
- NERV



E計画責任者、MAGIの運営及び管理担当者も兼任する科学者。常に論理的な思考を展開する、NERVの中核を担う存在。

● 表情



短く整えられた髪とぱっちりとした瞳からは、どこどなくあどけなさが感じられる。納服というよりは、可愛らしい印象の女性だ。

基本的には明るく素直な性格の持ち主のため、笑顔を見ることが多い。殺気とがちな司令室の雰囲気とを和ませてくれる存在といえる。



仕事中は、緊張感を帯びた真剣な表情をしていることが多い。仕事に没頭する、真面目で熱心な姿勢が、その表情ひとつから窺うことができる。



使徒襲撃時などの緊急場面には、窮乏した表情を見せつつも、正確にオペレーティングする冷静さを有している。

● 制服



他のオペレーターたちと共同で作業することも多いマヤ。あまり胸の高くないスタッフは、同じデザインの制服の着用が義務づけられているようだ。

● 正面



一般的なNERVスタッフの制服を着用しているマヤ。一部には満足とおぼしき女性オペレーターの姿も目立られるが、彼女は常に白いタイトズを着用している。

● 側面



仕事熱心なスタッフらしく、きちんと制服を締めているマヤ。他の女性オペレーターと比べて特別な立場にいないが、その出で立ちにこれといった差異は見られない。

キャラクターシート

Character Sheet

伊吹マヤ

Sheet

13

MAYA IBUKI

伊吹マヤ

という存在

→業務中、凛とした表情を見せるマヤ。仕事に向かう取り組む姿勢が際立つ表情からは、実年齢に若い大人っぽさを感じられる。



→通勤時の私服は、ハーフパンツにTシャツといった、シンプルでスポーティなもの。彼女らしい、少しばかり幼さを感じさせる出で立ちといえよう。

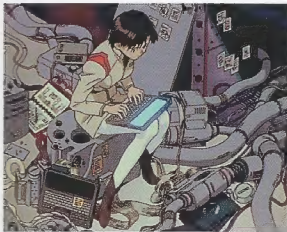


24歳という年齢の割に、マヤは少女の幼さを感じさせる女性である。仕事に対して非常に謹直であり、的確に上司を補佐し、確かな能力も持つ立派な大人に見える。しかしその一方で、感情的な面ではまだ大人になりきれていない部分も見受けられる。例えば、戦略自衛隊がNERV本部施設の直接占拠を図ってきた際、彼女は「私、鉄砲なんて撃てません」と口にした。さらに、訓練時には人はいなかった、と言いつつ「銃を人(敵)に向ける」ことを拒否する。逼迫した状況においてこんな行動を取ること自体、まるで子供のような我侷といっても過言ではないだろう。

また、恋愛小説を読むのが趣味らしく、休憩時間などに小説を開きつつ目を冴ませていることもある。そして、加持リョウジに甘い言葉をかけられたときにはまんざらでもなさそうな表情をしていたりもする。潔癖な性格の持ち主ではあるが、男性を嫌っているわけではないようで、恋愛そのものには憧れる気持ちもあるのかもしれない。マヤは、極力生々しい事実から目を背けたがる、少女のような存在なのだ。



カスパー内蔵に乱入する裏コードを見て、嬉しそうにはしゃぐマヤ。やや子供っぽい一面を見せるのは、プログラマーとしての血が騒いだためか。



驚異的な速さでキーボードを叩き続けるリツコ。そのスピードについていけないマヤもまた、非常に高い技能を有しているといえよう。

どのような業務に対しても、決して手を抜くことなく真面目に取り組む優秀なスタッフ、それがマヤである。クオリティの高い仕事を手早くこなせる彼女の、MAGIシステムの定期検診を行なった作業のスピードなどは、リツコをもってして「さすがマヤ、速いわね」と言わしめる程だ。また、普段はオペレーターという裏方的なポジションを務めるマヤだが、プログラマーとしての腕も相当なものがある。使徒がMAGIシステムに侵入した際にはその腕を遺憾なく発揮し、リツコのサポート役として働いている。リツコといえど、マヤなくして使徒のハッキングを防ぎきることは容易ではなかったはずだ。

NERV

スタッフ

としての姿勢

マヤはいたる所で潔癖性らしい言動を見せている。ダミーシステム(パイロットがいなくてもEVAを起動、操縦可能にするシステム)には難色を示している際、EVAの戦闘においてグロテスクな場面に直面した際には激しく嘔吐している。非人道的ともいえる事実がいくつも突きつけられるNERVという場所で、潔癖性のマヤは次第に自分たちの行動の正しさに疑問を持っていく。また、彼女はミサトと加持が重なり合い倒れているのを見て「不潔」と言い切っている。リツコに対し尊敬以上の感情を抱いている様子を見せるのは、肉体的な接触を伴う男女関係を拒否する潔癖さ故のことなのかもしれない。



使徒を捕獲するEVA初号機を目の当たりにし、マヤは嘔吐する。自分たちが造っていたものにはっきりとした嫌悪を見せた初めての瞬間である。

人類の捕食が進む中、マヤは自分が正しかった事を確認しようとする。数々の事實は、潔癖なマヤには耐えきれなかった。



潔癖性

が与える影響

赤木 リツコ

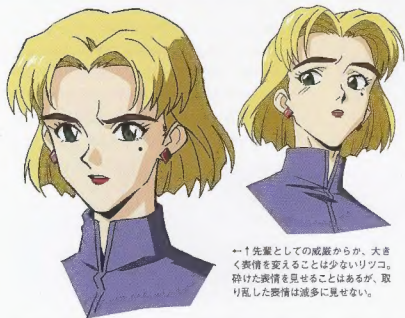
との関係



何らかの問題が発生した際には、リツコがマヤに対し詳細な指示を出し、マヤがそれを忠実に実行する。息の合った連携は、深い信頼関係の証といえる。



リツコに仕事を責められて喜ぶの表情を見せるマヤ。リツコは自分の技術だけに、それを本人に認められるのは何より嬉しいことなのだろう。



↑先輩としての威厳から、大きく表情を変えることは少ないリツコ。砕けた表情を見せることはあがる、取り乱した表情は滅多に見せな。

↑マヤの尊敬する上司であるリツコは、内面だけではなく外見も大人の女性らしさを漂わせている。マヤとは正反対と言ってもいい女性だ。



マヤと同じく、NERV技術開発部技術局一課に所属する科学者。赤木リツコ。ほとんどの場合、マヤの作業に関する直接的な指示は、マヤの直属の上司にあたる彼女が下している。リツコの片腕としてマヤは充分な動きをしているようで、互いの信頼は厚いものがある。そういった背景を考えると、リツコはマヤにとって、NERVの中では最も近いと言える存在なのだが、EVA開発責任者であると共に、MAGIの管理、運営までも任されているNERVの中心人物たるリツコは、決して手の届かない存在でもある。

また、マヤはリツコに尊敬の念以上の(同性愛に近いものも取れる)感情があることをほのめかしている。近くにいながら遠い存在である先輩に対して抱いた強い尊敬、羨望、信頼といった感情が、いつしか愛情に変わっていったとも考えられる。

一方のリツコの方はいくつか、マヤに対して「潔癖症ね、つらいわよ。人の中で生きてるのが、汚れた」と感じた時分かるわ、それが」と口にしたことがある。それは、科学者であり女であるリツコが、マヤに自分に重ね、自分のように汚れてほくはくはないと思ってることなのではないだろうか。

まだ幼さの残るマヤが、大人の女性であるリツコに憧れを越えた想いを抱いたのと同時に、リツコの方も、まだ少女のような純粋さを持つマヤに救われている部分があったのかも知れない。



戦略自衛隊の襲撃、人類補完計画の発動といった一連の出来事により、精神的に疲弊しまっていたマヤ。しかし、リツコの姿を見た彼女は、それまでの不安や恐怖が一気に拭き払われたような笑顔を見せた。リツコと抱き合い、「先輩」と呼び寄るマヤ。それが本当に求めている答えだったのかは不明だが、彼女は単身のうちに面談としての自分を含め、L.C.Lと化していった。

EVA初号機を依代とした人類の補完が行なわれ、ヒトがひとりずつA.T.フィールドを失ってL.C.Lと化していくのを見ていたマヤ。その光景が自らの求めていた答えなのか、と果敢としていた彼女にも最期の瞬間が訪れる。そのとき、マヤが見たのはリツコの姿だった。彼女はマヤが、誰よりも憧れ、尊敬してきた存在である。心身共に疲弊しきったマヤは、長い間その姿を見ることも許されなかったリツコのビジョンに自分の名を呼ばれ、抱きしめられる。そして、今までに見せたことがないほどの歓喜の表情を浮かべ、何度も「先輩」と繰り返しながら、すべてを受け入れてL.C.Lと化していった。

最期の瞬間 に見たもの

特記事項

不釣り合いなアイテムの意味

マヤが座る司令塔のオペレーター用のシートには、常にクッションが置かれている。一見、NERVの中枢たる司令塔という場に不釣り合いなアイテムだが、緊張を強いられることの多い職場で少しでも気を休められるようにと、愛用の品を置いてあるのではないかと思われる。実際、不安が断られるような事態に陥った際には、クッションを抱きしめているところも見受けられた。

なお、クッションのデザインは、ピンク色に猫の柄がプリントされたものである。少女子供っぽいながらも女性が好きそうなもので、いかにもマヤらしい品だといえる。ちなみに、リツコが猫の小物を好むことも何か関係があるとも考えられるが、その詳細は不明である。



レイと同化したリリスが現れた瞬間、マヤはクッションを抱きしめてデスクの下に潜り、震えるだけだった。クッションなど物理的には何の助けにもならないが、精神崩壊直前の彼女にとっては、せめてもの助けとなったことだろう。



14式大型移動指揮車



最前線における 臨時発令所

野外において情報収集や作戦の指揮を担う車両。軍事や極地探検、災害救助などに用いられるため、あらゆる事態にも迅速な対応を可能とする設備を有し、ある程度の荒地を踏破するフットワークを持つ。

NERVの用いる移動指揮車は、第3新東京市での作戦遂行が不可能な場合に投入され、使徒戦におけるEVAの指揮及びバックアップを行なう、いわば簡易司令所として機能する車両である。そのため高い情報処理能力を有し、複数のオペレーターの搭乗が可能であり、主に作戦部長の葛城ミサトが指揮を執る。

国連軍が制式採用している車両をNERV仕様に変更しており、フロントグリルのエンブレムから、車体はメルセデス・ベンツ製と思われる。なお、ダイムラー・クライスラーのブランドであるメルセデス・ベンツは、高級乗用車だけでなく世界有数のトラックメーカーとしても名を馳せており、この車体は2014年の最新モデルだと考えられよう。



14式以外の指揮車を運用した、作戦上よって使い分けられている。右は第7使徒イヴラール遊撃隊に用いた車両。



Command Vehicle 2014Type

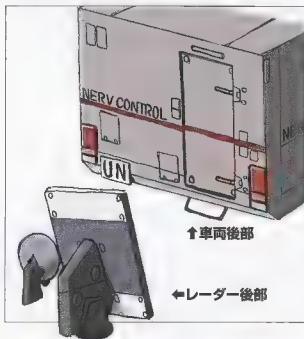
車両構造

車輪は左右4対。被弾の恐れがある前線での運用が前提のため、車体は頑強に作られている。カーゴ前半の天井にはレーダーアンテナが備えられ、高い情報収集能力を発揮。国連及びNERVの衛星を介した衛星回線の利用も可能だと考えられる。その真下には電子機器の詰まった機庫室が設けられており、オペレーターの作業する司令室はその後部に配置されている。

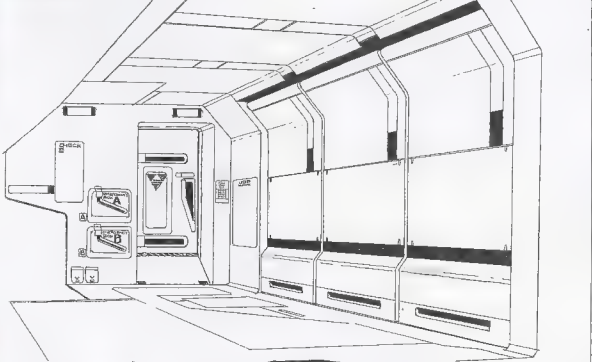


オペレーター席のタッチパネルはNERV本部の中央作戦司令室と同様。そのため、本部から出向したオペレーターがスムーズに作戦へ従事でき、迅速な対応が可能としている。

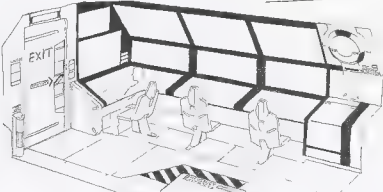
EVAのバックアップには膨大な情報処理能力が必要となるが、EVA3号機の起動実験における緊急制御に情報容量が使われていることから、情報処理能力の高さが窺える。



→指揮車内部



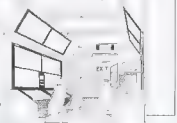
14式は大型の指揮車両だが、オペレーターは最大3人とそれほど多くはない。その分、電子機器が充実しており、スーパーコンピュータまでも搭載したコントロールルームは司令室の名に恥じない機能を持つ。中へは車両後部から入室し、機庫室へ続くドアがある。なお、緊急時用に消火装置が設置されているほか、床下は非常用ハッチから車体下部へと脱出が可能。



NERVが運用しているもうひとつの指揮車は、最大4人ものオペレーターが作業するところが可能。指揮を執る人物の転回を防ぐため、天井には手すりも設置されている。



アノロウ資料の「EVA」は、機庫室とパイロットの乗降を確保するための手すりも設置されている。

↑第7使徒
イスラフェル
迎撃時の指揮車内

運用実績

ヤシマ作戦、イスラフェル迎撃戦、A-17発令作戦の使徒捕獲作戦といった、第3新東京市外での作戦において投入。葛城一樹の指揮の下、EVAのバックアップとして活躍している。また、EVA3号機起動実験においても運用され、中央統制の役割を果たす。なお、電子機器の充実した14式が主に用いられるが、作戦内容によってはオペレーター数の多い指揮車が運用されている。

- ヤシマ作戦
- A-17
- 第7使徒イスラフェル
- EVA3号機の起動実験



加藤子爵を有するA-17に対し、EVAの長々距離射撃によってA.T.フィールドごとコアを買収(強襲作戦)が行われた。



イスラフェル迎撃時に綾河尚で運用された。その際、使徒の特殊能力を目的の当たりにした葛城一樹は、怒りと覚悟の至リインカムを握りつぶして破壊している。



EVA3号機の起動実験において、高度な情報処理性能を要した中央統制が用いられた。その際、使徒によって起こされた爆発に巻き込まれ、指揮を執っていたミサトとリツコが負傷している。

特記事項

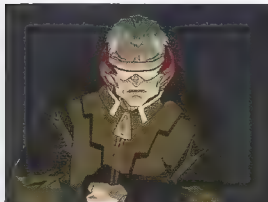

指揮車の乗組員たち

NERV本部の中央作戦司令室の作戦員は男女が混在する。基本的に作戦部と技術部が共同して作戦を実行しており、運用も本部の人員が担当することが多い。本部員の葛城ミサトが指揮を執り、オペレーターとして作戦部の日向マコト、技術部より深宮マヤが出向している。そのほか女性オペレーターが関係している場合が多い。また、E.T.直管責任でもあり、EVA3号機のニューサーキットと回線することも多い。



指揮車に所属するオペレーターは、作戦部が作戦の進行及び使徒の調査を、技術部がEVAの起動実験を担当している。

特務機関NERVを 諮問する 秘密委員会

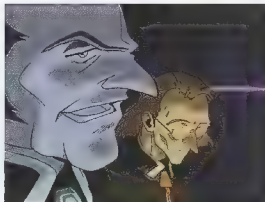



人類補完委員会

人類補完委員会

THE HUMAN INSTRUMENTALITY COMMITTEE

国連内の秘密委員会で、特務機関NERVの上位組織として設立された人類補完委員会。5カ国の代表者で構成された同委員会の真の任務は、ゼーレが秘蔵所有する文書「裏死海文書」の記述に基づき、人類補完計画の実行を指導、監督することであった。しかし、予定されていた人類補完計画のシナリオに阻撓が生じた後は、ゼーレ自身が積極的な活動を展開。以降、その下部組織である人類補完委員会がその姿を見せることはなかった。



国連の下部組織である人類補完委員会だが、その議長及び委員は秘密結社ゼーレのメンバーによって構成されている。そのメンバーは独、米、英、露、仏各国の代表5名で、議長は独国のキール・ローレンツが務めている。委員会の会合にはNERV関係者が召集され、NERVの予算、EVA関連の事象、人類補完計画に関する案件などが議題として扱われる。ただし、その内容は議論というよりも、各委員による一方的な叱責に終始する場合が多い。

なお、唯一姓名が明らかとなっているキール(偽名の可能性も否定はできないが)、NERVへの非難をくり返す人類補完委員の中で、特異な存在といえる。硬ゲンドウとは質異なることとまらないやりとりをすることも多く、他の委員とは一線を画した位置にいる人物である。



人類補完委員会の会合は、メンバーの本物がリアルに集まりパーティル会議である。そのプログラムであるため、彼らの容姿は作り上げられたイメージの可能性もあるが、その真偽は不明。なお、各委員の造形は決まっているようだ。

追加報告

人類補完委員会とゼーレ

NERVの上位組織として、その活動状況を監視する人類補完委員会。さらにその上位にある組織が、秘密結社ゼーレである。人類補完委員会と真正向きには国連の下部組織だが、実質的にはゼーレの意思をNERVに伝達する組織として、ゼーレの指示の下で活動しており、国連の影響力はほぼ無であったとされている。その前述の通り、その構成人員はすべてゼーレの傘下であった。こういった変則的な組織体系が成立した背景にはゼーレという組織の強大な社会的影響力があり、人類補完委員会という組織(さらにいうならば国連そのもの)は、ゼーレがNERVを掌握下に置くための窓口となつてきたと思われる。

なお、NERVの副司令官である冬月コウジは人類補完委員会「ただ文句を言うことだけが仕事をするやつらだからか」(冬月コウジ)と彼女と対峙しているが、ゼーレについては「ゼーレが乗り出すと面倒だから」と、その影響力を警戒する発言も口に出している。このことから、人類補完委員会とゼーレは別組織である。その権力の差が甚大であることが窺われる。



人類補完計画のシナリオは異なる出来事や起きたため、明確な順序は定まらなかった。冬月はその重要性から、人類補完委員会ではなくゼーレが真実を行なった。

■ゼーレ

■国連

■NERV

■キール・ローレンツ

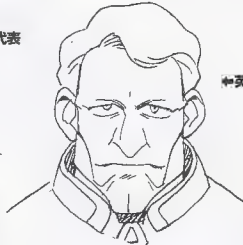


『真流海文書』の記述によれば、人類補完計画を立案する組織である国際秘密結社。その影響力は全世界規模なのである。

表情



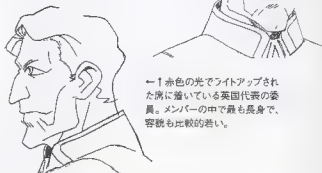
←米国代表



⇨英国代表



↑↑赤色の光でライトアップされた席に座っている英国代表の委員。その特徴的な容姿から、アメリカ系日本人と推察される。



↑↑赤色の光でライトアップされた席に座っている英国代表の委員。メンバーの中で最も長身で、容姿も比較若い。

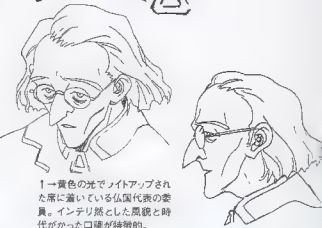
顔面代表⇨



⇨仏国代表



↑青色の光でライトアップされた席に座っている英国代表の委員。いかつい容姿で、威圧感のある薄笑いを浮かべることが多い。



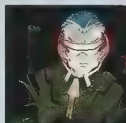
↑黄色の光でライトアップされた席に座っている仏国代表の委員。インテリジェントな風貌と時代がかった口調が特徴的。

特記事項

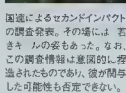
キール・ローレンツ議長の存在

人類補完委員会の会合の場において、白色の光でライトアップされた上座に鎮く独国代表、キール・ローレンツ議長。委員会にあって最も権威的な存在となっている彼もまた、秘密結社ゼーレの一員である。

2004年、「人類唯一の希望」とされる人類補完計画の骨子をまとめたゲンドウは、この計画を「キール議長に推挙済み」と口に出している。この事実から見れば、当時からキールは「議長」と呼ばれる存在であり、人類補完計画を裏で推進するゼーレにおいても特別な立場にいたものと考えられる。他の委員ももちろん一員ではあるものの、彼のみが大きな発言力を持っているという事象には、そういった背景があるものと思われる。



国おひと強く、いっほどの斬大な子孫についても「子孫については一考しよう」というひと声でまとめたキール。その発言力は、他の委員と一線を画しているといえる。



国連によるセカンドインパクトの調査発表。その場に「吾きキールの彼もまた。なり、この調査発表は、その調査されたものであり、彼ら関与した可能性も否定できない。

新世紀年表

1995年12月

1996年1月

1996年2月

1996年3月

1996年4月

1996年5月

1996年6月

1996年7月

1996年8月

1996年9月

1996年10月

1996年11月

1996年12月

1997年1月

1997年2月

1997年3月

1997年4月

1997年5月

1997年6月

1997年7月

1997年8月

1997年9月

1997年10月

1997年11月

1997年12月

1998年1月

1998年2月

1998年3月

1998年4月

1998年5月

1998年6月

1998年7月

1998年8月

1998年9月

1998年10月

1998年11月

1998年12月

A.D.2015

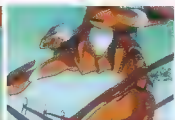
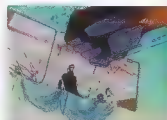
NERV本部

01 EVA零号機の発掘作業が進む

NERV本部内の第2実験場では、ベークライトで固められた零号機の発掘作業が進んでいた。以前の起動実験でレイと神経接続した零号機が突如暴走し、やむなく緊急拘束処置がなされたのである。リツコによれば、暴走の原因はパイロットの精神不安定だという。いつも冷静に見えるレイが不安定になっていた？ 思わずミサトは首を傾げるのだった。



ベークライトで下半身を固定された零号機は完全停止していた。



突如暴走し、管制室の窓を殴り始めた零号機。その時、レイは何があったのか。「わからないわ。でも……まさか、リツコは謎めいた言葉を発する。

↑初の実験型EVAとして完成した零号機だったが、起動実験に失敗して廃棄、実験場に放置されていた。

A.D.2015

第3新東京市

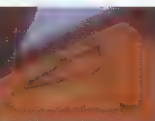
02 リツコ、ゲンドウの火傷の理由を明かす

思いがけない父の姿にシンジは驚く

リツコから聞かされた話は、シンジにとっては思いがけないものだった。ゲンドウの手の火傷は、零号機の起動実験の際にエンドリープラグに閉じ込められたレイを助け出すとして負ったものだというのだ。ゲンドウは過熱したハッチのレバーを強引につかみ、手が焦げることも構わず無理やりこじ開けたのだという。冷淡な人間だとばかり思っていた父の意外な行動に、シンジは驚きとくよくよの動揺を覚えたのだった。



新しくおとされたリープラグは、まだ天井に落ち、次に天井に叩きつけられた。それを止めようとして、リツコは目を失った。



暴走を発するハッチに、固まるんだもの、ゲンドウはなにより構わずレバーを回した。その様子を戸惑った表情で管制室から見おろすリツコ。レイの無事を確認したゲンドウの足元には、壊れた後のメガネが落ちていた。

2015年

EVA零号機の発掘作業が進む

リツコから分析結果を聞かされるシンジ、使徒の回収作業を見学

ゲンドウ、回収現場に姿を現わす

シンジ、ゲンドウの火傷に気づく

●第3新東京市

03 シンジ、
ゲンドウの火傷に気づく

ミサトたちから離れた場所では、ゲンドウと冬月が使徒から回収したコアを検分していた。その様子を見ていたシンジは、ふと、父の左手のひらに大きな火傷の痕があるのに気づく。なぜあんなものがあるんだろう。疑問に思ふらう。リッコがその理由を教えてくれた。



ゲンドウの手のひらにはケイコドク火傷の痕があった。

おすおすと疑問を口にするシンジに、リッコは番号機の事故のことを語り出す。



モザイク表示を示すのは格納庫を指す。このマークは、扉扉には隠れている。両側壁に設置されている。

使徒と人間のバネマンの一致率は99.99%。外見能力も異なる。両側壁に設置されている。



A.D.2015

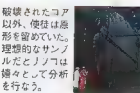
02 シンジ、使徒の回収作業を見学

使徒の構造には人間に酷似した部分があった。第4使徒との戦闘のあと、戦闘が行なわれた山の麓にはプレハブの施設が建てられ、その内部で回収された使徒の分析作業が始まっていた。ミサトと共に見学にやってきましたシンジは、もの陰しそこに周囲を見て回る。リッコの話では、使徒は粒子と波の性質を備える光のようなもので構成されているという。つまり人間とはまったく異なる存在だが、使徒の固有波形状ターンの、人間の遺伝子配列に奇妙なまでに酷似していた。



副都の跡もまだ見えない。遠くは荒れ果てた。遠くは荒れ果てた。

破壊されたコア以外、使徒は原形を留めていた。理想的なサンプルだ。リッコは構想を立てて分析を行なう。



A.D.2015

●第8中学校

05 シンジ、レイを意識する

リッコの話を聞いて以来、レイのことが気になり始めたシンジは、体育の授業中もつい遠くから様子を見てしまう。それに気づいた鈴屋トウと相田ゲンスケは、レイに気があるのかとからかうが、シンジはそんなんじゃないかと憤て否定する。「どうしてあいつ、いつもひとりなんだらうって思ってる」その言葉にトウは少し考えこむと、レイは1年の時に転校してきて以来、ずっとひとりであると言えた。



女子生徒は水泳の授業中、クラスメイトから離れてプールサイドに寄りかかっているレイの様子を、シンジは教室から眺めていた。



二年半が過ぎながらシンジはからかってくるトウとゲンスケ。先日的一件ふ案、シンジはすかさず返すと打ち解けた様子を示すようになった。

A.D.2015

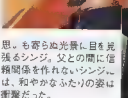
●NERV本部

06 シンジ、
驚嘆するレイとゲンドウを目撃

番号機の再起動実験が近づいてきた。NERV地下の格納庫では準備が着々と進められ、レイもまたプラグスーツ姿で作業にそそんでいた。初号機のココピットで待機していたシンジは、ふと、レイに歩み寄ってきたゲンドウの姿に気を取られる。見たことのない種やかな表情を浮かべている父と、そんな父に微笑み返すレイ。意外なほどに親しげなふたりに、シンジは少なからぬショックを受ける。



片腕のアナウンスが流れる中、後陣中のレイに歩み寄ったゲンドウは、僅しい表情を浮かべて彼女に話しかけようとする。



思。も喜らぬ光景に目を見張るシンジ。父との間に信頼関係を作れないシンジには、程々のふたりの姿は衝撃だった。



A.D.2015

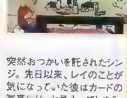
●第3新東京市

07 リッコ、
シンジにおつかいを頼む

葛城家にリッコが泊まりに来た。相変わらずのインスタント食品三昧の食卓を見てうんざりとした顔つきになるリッコだったが、ミサトは気にした様子もなく、レトルトのカレー入りカップラーメンをすすべている。あれこれ会話を交わすうちに、ふとレイにセキュリティカードを渡しそびれているところへ響って話をつけてくれないかと、シンジにカードを手渡した。



ミサトお手製のカレーを口にしていたシンジは、げんざりしたリッコに、今度はシンジが食卓の隅のときに呼んでくれと頼んだ。



突然おつかいを託されたシンジ。先日以来、レイのことが気になっていた彼はカードの写真にじっと見入ってしまう。



シンジ、
レイのIDカードを託される

シンジに、
おつかいを頼む

リッコ、
ミサトの部屋を訪ねる

シンジ、
談笑するレイと
ゲンドウを目撃

シンジ、
番号機の再起動実験に参加

シンジ、
レイを意識する

リッコ、
シンジにゲンドウの火傷の
理由を明かす

A.D.2015

08 **シンジ、レイの部屋を訪ねる**

レイの部屋を訪れたシンジは、なぜか壊れたメガネが置いてあるのを見つけた。それは事故の際にゲンドウが落としたものだったが、それを知らないシンジは、レイのものかと思いつつ、なんとなくそれをかけてみる。その時、ふいに全裸のレイが現れたのだった。



レイの住まいは荒涼とした団地群の一角にあった。

シンジの前に現れたレイはそれまでシャワーを浴びていたらしく、裸のままだった。



●第3新東京市

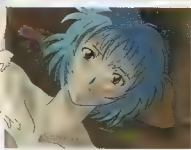
09 **シンジ、レイと出会う**

感情を見せない少女、レイ
恥じらう様子も見せず近づいてくるレイに動転したシンジは足を滑らせ、ふたりはそのまま折り重なって転んでしまった。「どいてくれる?」その声でレイの胸に手をあてていたことに気づいたシンジは、あわててどきどき。対照的に何事もなかったように着替え始めるレイ。シンジはしどろもどろにここへ来た理由を語ろうとするが、レイはまったく興味なさげに部屋を出て行ってしまった。

→下着姿をさらすレイ。先日
の事故で負った傷は完治した
ように、傷跡はどこにも残
っていないようだ。



メガネを脱ぎ赤い目をする
レイ。そんな彼女を押し
倒すようにして、傷ついた
シンジは転んでしまう。



→上着も脱ぎ、シンジの目の前で全裸姿をさらすレイ。その驚愕の表情は忘れられない。14歳の少女にしては、結構な容姿に恵まれていた。



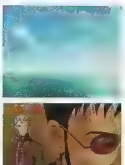
真つしは素直な性格で、おとなしい。たいていおとなしく話しかけてくる。シンジは、レイの容姿に驚かされた。

A.D.2015

●NERV本部

12 **EVA初号機、発達準備を進める**

使徒接近によって零号機の起動実験は即時中止される。ゲンドウは初号機による迎撃を指示した。「380秒で準備できます」リツコをはじめとする職員たちは慌しく初号機の発達準備に入った。そしてシンジもまた、急ぎエントリーブースに乗り込むのだった。



第5使徒は初号機で迎撃しよう。ゲンドウは命じる。

実験の中止を伝えられたレイは、驚かされたアプ内であっという間に身体力を抜く。

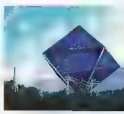


A.D.2015

13 **初号機、加粒子砲の攻撃にさらされる**

不意打ちされた初号機とシンジに危機が迫る

正八面体のような形状をした使徒が第3新東京市に接近してくる。それに対してすまやかに発達準備を敷えられた初号機が、地上へ向かって射出された。だがその時、初号機の動きに呼応するように、使徒の内部で高エネルギー反応が発生した。危険を察知したミサトが叫ぶ。「だめ、避けて!!」その後、地上に出現したばかりの初号機に、強力な加粒子砲が放たれた。胸部に直撃を食らう初号機。シンジは突然の苦痛に絶叫する。



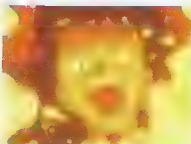
生物として作り無機物で構成された使徒は、高エネルギー反応を発生させる。



「目撃内部に高エネルギー反応を確認!! 雷軍の声... ミサトは使徒が攻撃を仕掛けてきていると知る。



使徒から放たれた強力な光線は、位置を失った初号機の胸を直撃する。



攻撃の直撃でエントリーブース位置を失った初号機は、地上に落下し、シンジは出陣を断念せざるを得ない。

2015年

シンジ、マンモス団地にあるレイの部屋を訪ねる



レイ、冷静にシンジをあしらう
シンジ、風呂上りのレイと出会う



シンジ、ゲンドウを批判してレイに平手打ちされる



第3新東京市に新たな使徒が接近



初号機、発達準備を進める

A.D.2015

●NERV本部

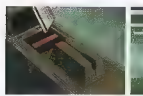
10 シンジ、レイに平手打ちされる

父を罵るシンジに対してレイは怒りを示した

翌日、NERV本部へ向かうレイのあとを追うシンジの姿があった。だがシンジはレイにどう強しをかけたいのかわからず、ふたりは言葉交わさないままに本部へ到着する。やっとなレイカードを手渡したシンジは、もう行き行なわれる再起動実験のことを口にした。怖くないのかとレイ



シンジと本部へ向かうレイは、偶然と本部へ向かうシンジと邂逅する。レイは、シンジを怒らせた。シンジは、レイに平手打ちされた。



レイの古いカードでは本部には入れなくなっていた。ここぞとばかりに新しいカードを出してシンジだが、レイの顔はさびたものだった。



自分と隣接してられ子供なんだ。レイは、シンジを怒らせた。シンジは、レイに平手打ちされた。



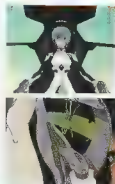
思い切らぬシンジの横の面を叩く。レイは、シンジを怒らせた。シンジは、レイに平手打ちされた。

A.D.2015

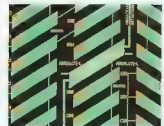
●第3新東京市

11 第3新東京市に新たな使徒が接近

いよいよ零号機の再起動実験が始まることになった。プラグスーツに装着されたレイは、ゲンドウのメガネを持ったままエントリープラグに乗り込む。緊張した空気のなか特種接触が行なわれたが、作業は滞りなく進行し、再起動実験は無事成功。思わず安堵する職員たちだが、その気持ちは嘲笑うかのように、使徒が薄上から接近中との報が入った。



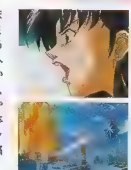
お守り代わりのつもりが、レイはエントリープラグ、ゲンドウのメガネを持ちこんだ。



前回の実験では絶対境界線の前後で機体が暴走してしまっただけだが、今回は何事もなく実験は成功した。

14 初号機、緊急回避

このままでは抵抗できないまま撃破されてしまうと危険したミサトは、初号機を緊急回避するよう指示を出す。即座に地下へ降り込むレイは、使徒から引き離される初号機。しかし、すでに受けたダメージは大きかった。たった一度の攻撃で機体胸部が溶解し、パイロットのシンジもまた、心臓停止状態に陥ってしまったのである。



「戻して早くミサトの指示を。初号機は地下へ収容され、なんとか使徒の攻撃から逃れた。」

心臓停止状態のシンジに電気ショックが施された。これにより、蘇生に成功したものの、危険な状態に変わりはしない。

15 使徒、ジオフロントの真土に到達

使徒はNERV本部に対する直接侵襲を開始した

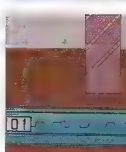
格納庫へ向かったミサトが目にしたのは、意識のないシンジの姿だった。ただちに医療関係者が駆けつけ、シンジは本部内の病院に搬送された。慌しく移動して行くタンカに付き添うミサト。緊急処置室へ運び込まれるシンジを見送る彼女の顔は、心痛に曇っていた。一方、シンジが死ぬか生きるかの瀬戸際にいたころ、地上では使徒が新たな動きを見せていた。第3新東京市の中央へ移動してきた使徒は、シールドのようなものを露出させるとNERV本部へ向かって地面を掘りはじめたのである。



初号機が緊急回避する。レイは、シンジの下へ駆けつけてくれた。



異から血を流し、ぐったりと身体を投げ出したシンジは、すぐに処置室へ運ばれ、緊急治療を受けることになった。



NERV本部の車道上で移動した使徒は、地上に降りた。地上に降りた使徒は、地上に降りた。地上に降りた使徒は、地上に降りた。

地上とジオフロントは特殊装甲で覆われており、地上に降りた使徒は、地上に降りた。地上に降りた使徒は、地上に降りた。

使徒内部にエネルギー反応が増大

初号機、リフト・砲の攻撃にさらされる

シンジに蘇生処置が施される

使徒、ジオフロント直上に到達

タクティクスシート

actics Sheet

二点同時過重攻撃作戦

Sheet

10

THE HEAVY SIMULTANEOUS 2-POINT ATTACK

Illustration by Takuya Ito

第7使徒イスラフェルは、自身のコアと本体を分裂、合体させる能力を持つ特殊な使徒であった。この使徒の出現により、「完全な単体兵器」という使徒の概念は覆された。この特性によりイスラフェルは、今まで
の使徒とは異なる攻撃パターンを見せたが、両々の攻撃力、防衛力はさほど高くはなく、2機のエヴァンゲリオンと第3新東京市の連係攻撃の前に敗れ去った。

「使徒の多様性をもっと増やした」第7使徒の存在

確率論による生存性の向上に、
その特異性を顕在させた。「単独で複数」の使徒

TACTICS SHEET

後にイスラフェルと呼ばれる第7使徒は、これまでの使徒とはあらゆる点で異なる存在であった。その特異な点とは、分裂することでサイバビリティと作戦遂行能力を向上させていたことである。

これまでの使徒は、単独での行動が基本であった。そのため、攻撃力や防衛力の強化、そして特定的环境下での活動に特化することで、その能力を最大限に発揮していた。確かに形態こそ多様ではあったが、「兵器」としてのコンセプトはほぼ同一のものであった。これに対し、第7使徒は「分裂、合体」という既存の使徒にはない能力を有していた。この能力により、第7使徒は本体とコアを二分させるだけではなく、全てのコアが破壊されない限り活動を継続することが可能だったのである。この能力を攻撃に振り向ければ、「ランチェスターの法則」[質が変わらなければ、攻撃力は兵士の数に比例す

る]に則った戦力の強化が可能であった。また、第7使徒の持つ、分裂という能力が自らを複製することと同義と捉えられることも多い。そのため、第7使徒はこれまでの使徒に比べ極めて「生物的」な特徴を持つ使徒とも考えられている。

しかし、こうした使徒の特性は外見から判別することはできない。そのために、使徒と接触したNERVは思わぬ苦戦を強いられた。使徒の存在を確認したNERVは、EVA初号機と新たに配備されたEVA 2号機を出撃させ、上陸地点での迎撃を狙った。2体のEVAに対しては使徒はわずかに1体の優劣は誰の目にも明らかであった。しかし、分裂するという予想もしない使徒の特性により、2体のEVAは戦闘不能に追い込まれ、さらにNERVは指揮権を国連軍に移譲するという不名誉を蒙ることとなった。その後、使徒の特性に対する対抗策を考案したNERVはわずか6日——これは国連軍の兵器の攻撃によって、ダメージを受けた使徒が活動を再開するまでの時間でもあった——でEVA操縦者の訓練

を完了させると、再度、使徒との戦闘に挑み、これを撃破したのである。

この戦いでは2機のEVA以外にも、第3新東京市の装備やNERVの人員の活躍も特筆に値する。コアが分離中の使徒に対する二点同時の過重攻撃は、そのタイミングが何よりも重視された。使徒にイニシアチブを取られた場合、このタイミングを得ることは事実上、不可能であった。第3新東京市の兵装群は、2機のEVAへの完璧な支援を行ない、終始、戦闘の主導権をEVAに握らせ続けた。

第7使徒との戦いにおいて、NERVは複数のEVAによる、そしてEVAと第3新東京市の連携という、当初から想定していた運用を成し遂げたのである。

RELATED MATTERS

- 第7使徒イスラフェル
- エヴァンゲリオン初号機
- エヴァンゲリオン2号機
- シンク口碑
- 第3新東京市



7番目の使徒。第3使徒サキエルに似た外見を持つが、分裂、合体機能を有するなど、高度化した能力を有する。

タクティクスシート

actics Sheet

第7使徒の出現と第一次迎撃作戦の失敗

第3新東京市は、第6使徒ラミエルとの戦闘によるダメージから回復してはなかった。そのため、NERVは駿河湾付近での迎撃を決定。しかし、出現した第7使徒の特殊能力に翻弄され、2機のEVAは共に行動不能に陥ってしまった。作戦遂行能力を失ったNERVは、国連軍に指揮権を移譲。これを受けた国連軍は14分間隔により使徒の足止めに成功するが、これも一時的なものであり、根本的な撃退は先送りとなった。



使徒出現地点は、第3新東京市近郊の駿河湾付近に位置する。

使徒の進行ルート

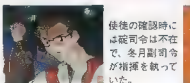
TACTICS SHEET

下の図が第7使徒の侵襲ルートと推定される。出現地点などは他の使徒同様、不明である。



1 使徒の発見と確認

増城の巡洋艦「はるなび」、紀伊半島沖に巨大な漂流物体の存在が確認された。送られたデータがNERVにこれを使徒と断定。第一機動隊配置に移り、使徒迎撃の準備を開始した。



使徒の確認時に、監視官は不在で、全月動司令が指揮を執っていた。

2 エヴァンゲリオン出撃

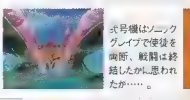
第3新東京市での迎撃が不可能であったことから、NERVは使徒の迎撃を水路で行うことと決定。バックアップシステムと共に、初号機と式号機の2機のEVAが駿河湾へと空輸された。



移動指揮車も出撃するが、ヤンキー作戦、時と場合により、機動隊は終結したと思われたが……。

3 接近と戦闘の開始

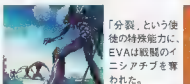
臨海部に配備された2機のEVAは、上陸を目指す使徒と接触。パイロット同士の連携は完全ではなかったが、初号機が援護を行ない、式号機が使徒に接近、有効と思われる打撃を与えた。



式号機はノンクランプで空陸両用機だが、経験は終結したと思われたが……。

4 使徒の分裂と戦闘の終結

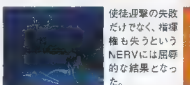
EVA式号機の攻撃を受けた使徒は、そのまま2体に分れる。その後、使徒はEVAに近接攻撃を挑んだ。想定外の状況にNERV側は対処できず、2機のEVAは機能を停止した。



「分裂」という使徒の特殊能力に、NERVは即時的な対応がなかった。

5 NERV撤退と国連軍の戦闘

唯一の戦闘能力を失ったNERVは撤退と同時に、国連軍へと指揮権を移譲した。これを受けた国連軍は14分間隔を使用し、日本国内の一部と引き換えに使徒の侵襲能力を一時的に奪うことに成功する。

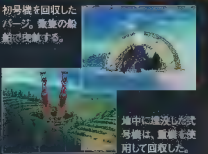


使徒迎撃の失敗だけでなく、指揮権も失うというNERVによる悲劇的な結果となった。

追加報告

稼働不能状態のEVAの回収作業

使徒に撃退（恐らくその際にアンビカルルケーブルを切断された）2機のEVAは、初号機は海中で、そして式号機は海中で戦闘を停止した。海中の初号機は巨大なバージ（浮き輪）を使用して回収。また、海中に突き刺さった式号機は重機で慎重に局面を掘削して回収するという、初号機より手間がかかる方法が採られた。

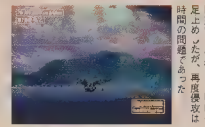


初号機を回収したバージ。重機の船載で運搬する。

海中に運送した式号機は、重機を使用して回収した。

分裂する使徒に対する新たな迎撃作戦

分裂、合体することで、攻撃能力と防御能力を向上させた第7使徒に対し、NERVは使徒のコアを同時に攻撃するとい作戦を立案した。擬人化と擬置「アスカ・ラングレー」も、EVA操縦者は、攻撃に合わせた新たな迎撃パターンを習熟する訓練を行なった。また、第3新東京市をEVAのシンクロと合わせ支援攻撃を行なうために、兵器ビルを中心とした施設の修復作業も急ピッチで進められた。



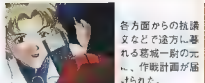
足踏は使徒を、絶望的に倒すには、再度迎撃は時に困難であった。

ユニゾンによる二点同時過重攻撃

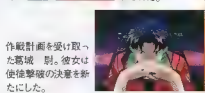
TACTICS SHEET

#1 対使徒作戦立案

NERVは第7使徒に対し、従来の「A.T.フィールドの突破（もしくは中折）とコアに対する攻撃」とは違うコンセプトを持った作戦の立案を強いられた。これまでにない攻撃法の立案は、わずかな時間では不可能かと思われたが、意外なところからヒントがもたらされた。ドイツ支部から本部へ向中の職員が「同時攻撃」というアイデアを提案したのである。作戦課はこれを元に具体的な作戦を立案した。



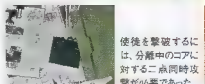
各方面からの執拗的な議論や、また遠方から寄せられた意見、一部の元々、作戦計画が編み出された。



作戦計画を受け取り、大感興奮。後々、使徒撃退の決意を新たにした。

#2 作戦遂行への絶対条件

分裂する使徒を撃破するためには、分離したコアに対する同時攻撃が必要と考えられた。これは成功させるためには2機のEVAによる同時攻撃が必須であった。両者の攻撃パターンを合わせるために立案された作戦は、音楽をキーとしてEVAの動きをシンクロさせるというものだった。同時にEVAの動きに使徒を強制的に合わせるため、第3新東京市の支援能力も必要とされ、攻撃パターンの研究が進められた。



使徒を撃破するためには、分離したコアに対する二点同時攻撃が必要であった。



二点同時攻撃を実行にこなすため、ふたりのEVA操縦者も同居することになった。

#3 EVA操縦者のユニゾン訓練

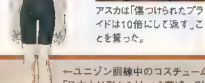
作戦の立案と同時に、EVA操縦者に対する訓練も実施された。これは、前述したように音楽を基準に操縦者がそれぞれの行動を同期させ、それを元に、戦闘開始のパターンを習熟させることを目的とした。これは相手の動きを認識、把握することにより、味方の行動とシンクロし、さらには適切な支援を受ける事を目標としたものである。戦闘前からの操縦者同士の連携不足が使徒が分裂した後の対応の不備を招いた。第1次攻撃時の戦闘も盛り込んだものとなった。



当初、アスカとシンクロの連携は全く取れていなかった。しかし、レイはシンクロした動きを合わせることができた。



アスカが「コックピットがブレイドは10秒に1度です」とこを覚えた。



ユニゾン訓練中のコスチューム。日本人は形が正しいという意味、一部の指示によるものだった。

特記事項

国連軍の対使徒戦時

使徒に対する有効な能力を持たない国連軍の対使徒戦略は、基本的にNERVの支援で、組織の連携を生かした、情報収集活動が主なものであると考えられる。また、NERVと連携し、使徒の侵襲経路、制圧地域への襲撃を行うこともある。

●第3使徒 サキエル

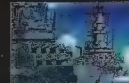
使徒の姿容が空想を超えていた。通常の兵器を展開し、最終的にNERV側に向け投入し、結果として被害を拡大した。



現用兵器での撃退が不可能となり、兵器を使用した。

●第6使徒 ガキエル

想定していなかった戦況で、防衛を展開し、最終的にNERV側に向け投入し、結果として被害を拡大した。



NERVの立案した作戦に異なり、反発の戦態を供出した。

●第7使徒 イスラフェル

赤城を襲行、指揮権が移譲された後には計画による支援攻撃を実行。役割分担がしっかりとされていた。



兵器の使用は使徒の動向を監視していた。

EVAと第3新東京市の連携による、使徒迎撃作戦

7 第六段階：二点同時過重攻撃

TACTICS SHEET

使徒が融合する直前を狙い、2機のEVAは同時にそれぞれのコアに対して上空から襲撃を繰り返す。同時過重攻撃を行なった。EVAの攻撃よって使徒は都市近郊にある山の山頂にまで吹き飛ばされると同時に、コアを破壊され、爆発した。



EVAは使徒が合体する瞬間、1機1機に対して攻撃を連続。2機のEVAによる過重攻撃は使徒のコアを破壊した。

6 第五段階：使徒の合体

TACTICS SHEET

支援攻撃とまよく連携しながら、EVA初号機と式号機が2体の使徒へとそれぞれ肉薄した。EVAは使徒に対し、アップ、カマト落しを連続して繰り返す。ダメージを与えた。攻撃を受けた使徒は合体を開始した。



使徒に接近したEVAは、補助攻撃を行なった。これは使徒の撃破を目的としたものではなく、最終攻撃への布石であった。



NERV側の準備が万全であったと言えない。しかし、持ちこたえる戦力のあるを投入し、使徒に挑んだのである。

2 第一段階：使徒の強制分裂

TACTICS SHEET

ジオフロントから出撃した初号機と式号機は、使徒上空からヤリ状に伸縮するフォルドジェネレーターを投擲。展開したフォルドにより使徒を両断し、強制的に2体に分裂させることに成功した。これにより、使徒迎撃のための第一段階が完了した。



ヤリ状の兵器で使徒を両断したEVAは、両断された使徒を分離させた。

5 第四段階：第3新東京市の支援

TACTICS SHEET

最終ポイントに使徒を誘導したEVAは、最終攻撃に向けて体勢を立て直しを試みる。その間、第3新東京市はEVAの動きをサポートすると共に、使徒の動きを制限するために、都市内の兵装ビル群からミサイルやロケットによる支援射撃を実施した。



NERVと第3新東京市はEVAの迎撃を支援する。兵装ビル群からミサイルやロケットによる支援射撃を実施した。

4 第三段階：分裂した使徒の誘導

TACTICS SHEET

最終攻撃ポイントの直前まで使徒を誘導すると同時に、EVAは第3新東京市に設置された射出式シールドの陰に隠れ、使徒の攻撃を回避した。その後、EVAはシールドの陰から使徒に対し、複合射撃を実施した。



シールドの陰に隠れ、使徒の攻撃を回避した。その後、EVAはそこで次の攻撃を繰り返す。

3 第二段階：分裂した使徒の攪乱

TACTICS SHEET

EVA各機は第3新東京市に設置された兵装ビルより、ボジトロライフルなどの携帯火器を入手した。その後、移動しながらの射撃を行ない、分裂した使徒が再融合を行なう機会を奪うと同時に、次の攻撃ポイントへと誘導を開始した。



携帯火器はボジトロライフル。EVAはここで次の攻撃を繰り返す。

1 使徒の再侵攻とEVAの出撃

TACTICS SHEET

使徒の自己修復が終了し、使徒は第3新東京市に向けて再び侵攻を開始した。追従する国軍軍の訓練を基に、使徒の動向への侵入を察知したNERVは、修理が完了した2機のEVAを出撃させた。この時点で、使徒との戦闘時間は62分と見積もられていた。



自己修復を終えた使徒は再び侵攻を開始し、使徒の動向への侵入を察知したNERVは、修理が完了した2機のEVAを出撃させた。この時点で、使徒との戦闘時間は62分と見積もられていた。

技術調書

使徒——未知の生態

使徒は「究極の独立稼働兵器」と称されることも多いが、この言葉はそれ以上の事が解っていないということの証明でもある。構成物質は未知の金属結晶体ということしか判明しておらず、その固有波形パターンは人類に酷似している。また、高度な自己再生機能を備えているにもかかわらず、エネルギーの摂取は現在まで確認されていない。さらにエネルギー兵器をも使用可能であることから、エネルギーと物質の変換能力を持っているとも考えられるが、いずれも推測の域を出ていない。



↑第7使徒イスタファル。分離、合体という特異な性質を兼ねている。



↑第4使徒シン・ギエル。光が採集された物質が採集された物質



高濃生体組織の採集。第7使徒。金属結晶のような素を第5使徒つづメル。



作戦報告

特殊な使徒の残したふたつの教訓

① 複数使徒への対応

今回の使徒との戦闘は、使徒は必ず一つずつで出現するという、先入観が裏目に出た戦いであった。使徒に対抗できる戦力がわずか3機のEVAしかない以上、今回の作戦で実施した使徒の誘導や行動を遅延させるという戦術は、より一層研究する必要がある。



複数の使徒の出現も可能性は低く、複数の地域に使徒が出現した場合、NERVの作戦能力を測ることが危険視される。

② EVA及びパイロットの連携

EVAの操縦者は、その資質が優先されることから、戦闘に適した人材が選ばれるとは限らない。操縦技術は訓練での補正が可能である。また、戦闘時には操縦技術以上にEVA同士の連携が必要となるため、今後も継続した訓練が必要である。



↑第7使徒集に付る訓練の成功や、海軍・マスからパイロットの募集もあてたい。



↑完全なマンツーマンでの連携・Vの形を常時以上にさせた。



この戦いは、第3新東京市とEVAの連携だけでなく、EVA同士の完璧な連携を確立した戦術でもあった。

ポジトロンライフル

POSITRON RIFLE

エヴァンゲリオンの数ある装備のなかで長射程かつ大火力を誇る兵装といえば「ポジトロンライフル」であろう。パレットライフルが通常弾頭(劣化ウランニューム弾)を使用するのに対して、陽電子(ポジトロン)を弾体とするポジトロンライフルは射程、弾速、命中時の破壊力のどれをとっても優れている。だがその反面、陽電子は生成や保存、取り扱いが難しく、実用化には多くの懸案事項が見込まれていた。しかし本兵装の潜在能力は使徒との戦闘には必要と見なされ、幾多の問題点をクリアしてエヴァンゲリオンの制式兵装に名を連ねることになったのである。

実用化が難しいとされるポジトロンライフルだが、その核となる陽電子の存在は20世紀の段階から提唱されていた。1928年、イギリスの理論物理学者ポール・エイドリアン・モーリス・ディラックは量子力学の研究から電子の運動を記述する方程式を考案。この式からあらゆる空間に偏在するマイナスエネルギーの場(ディラックの海)という概念が導き出され、その場を満たす反粒子(現実の物質とは正反対の電気的性質を持つ粒子)が存在するという仮説を打ち立てた。そして1932年、アメリカの実験物理学者カール・ディビッド・アンダーソンによって反粒子の実在が証明され、その際に発見されたプラスの電荷を持つ反粒子を陽電子と命名。以後、陽電子は主に医療用器具に利用された(ポジトロン断層法を用いた癌の発見など)。しかし、20世紀末に陽電子の軍事転用の可能性を見出す事態が発生した。セカンドインパクトと、それに続く世界規模の軍事緊張である。

2000年9月15日、インド・パキスタン間の難民同士の間で端を発する軍事紛争は瞬く間に世界を席捲。同月20日には東京が新型爆弾で壊滅する事態となり、各国は事態の鎮圧と共に新型兵器開発に血道をあげるようになる。それは日本も同様であり、戦時自衛隊技術研究所(戦自研)主導の下、多くの兵器開発が立案された。切迫した時流は優れた武器の出現を求め、それがポジトロンライフル(自走陽電子砲)の開発の契機となったのだ。その後、緊張は緩和され、試作機も目の目を見ることはないかと思われた。だが活躍の場は意外な形でもたらされることになる。NERVに徴用された試作機は、使徒との戦闘でその持てる能力を遺憾なく発揮してみせたのである。

関連事項 RELATED MATTERS

- ヤンマ作戦
- 二点射適量攻撃作戦
- 第15使徒アラエル戦
- エヴァンゲリオン
- NERV



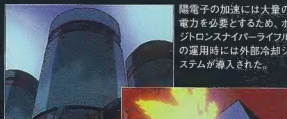
銃壁の防御能力を誇る第5使徒ツミルに對して、ポジトロンライフルによるオーバーキルによる長々たる難題攻撃戦が行われた。



効率的な発射システム
陽電子自体の性質を利用した

発射原理

実体弾を射出するバレットライフルと陽電子を射出するボジトロンライフルはまったく異なる兵装だが、根本的な発射原理には共通する部分がある。両者共、電磁気力を利用して弾頭の加速を行なっているのだ。バレットライフルの場合、弾頭は電気的に中性なのであらかじめ磁性化しておく必要がある(もしくは加速剤としてプラズマを利用する)。一方、プラスの電荷を帯びる陽電子はそれぞれ自体でプラスの電荷に反発し、投入されたエネルギーを効率的に加速力に変換することができるのである。



陽電子の加速には大量の電力を必要とするため、ボジトロンナイバーライフルの運用時には外部冷却システムが導入された。



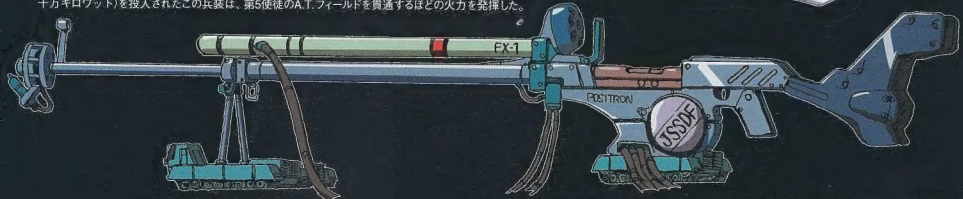
二系統存在する兵装
その出自と能力

種類と特徴

NERVが運用したボジトロンライフルには2種類ある。EVA専用兵装としてNERVが独自に開発したのも、戦自研から徴収した試作型を改修したものだ。どちらも基本的な原理や運用方法は同じであり、バレットライフルよりも高い火力を有することも共通している。相違点としてはNERV独自のボジトロンライフルは取り回し性に優れ、連続発射が可能となっている。対する戦自研の試作型を元とするボジトロンライフルは、射程が長く1発の火力に優れるという特性を持っている。

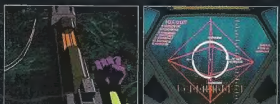
■ボジトロンナイバーライフル(元・試作自走陽電子砲)

戦自研が次世代の自走砲として開発していた試作機をNERVが徴収、EVA用として急遽改修を施したものの、グリップやトリガー、照準用スコープなどを設置してライフルとしての機能を付加しているが、ストック部分にキャタビラ付きの固定車を設置するなど、意図しらの強は否めぬ。また最新のスタンドアロン型ではなく、運用には外部電源を必要とする。それだけにその威力は目撃し、日本中の電力(1億8千万キロワット)を投入されたこの兵装は、第5使徒のA.T.フィールドを貫通するほどの火力を発揮した。



■ボジトロンライフル/射撃シーケンス

ここで解説しているのはボジトロンナイバーライフルの射撃シーケンスである。他タイプのボジトロンライフルも基本的な手順は共通するが、シーケンスによっては簡略化されている部分もあり、運用が格段に容易になっている。これについては、戦自研から徴収された試作機をボジトロンナイバーライフルとして急遽改修したこと、そのため実験に際してもろくろく運用試験が実施できなかったことなどが要因として考えられるだろう。



射撃シーケンスの複雑さに対して実際の射撃準備は単純そのもの。撃鉄(ヒューズ)の準備や照準の調整など造敵の大変なない。

1 陽電子の生成/貯蔵

陽電子は極めて不安定な物質であり、ボジトロンライフル運用の直前に生成する必要がある。加速器(サイクロトロン)で加速された電子を重金属粒子に衝突させることで、原子核内で電子の動きが制動されて強い光(光子)を放射する。この光子がさらに重金属粒子と衝突すると電子と陽電子のペアを発生させるため、強力な磁場を使って陽電子のみを封じ込め、それを弾頭として利用するのである。



地下の球形空間内に構築されたジオフロントの周囲には安全な円形をしており、加速器のレールを殺傷するには最適である。

2 周囲の環境からの影響を補正

質量を持つ実体弾が空気抵抗や重力の影響を受けるように、プラスの電荷を帯びる陽電子は周囲の磁場から影響を受ける。そのため射撃前に周囲の磁場状態を精査し、その影響を含めた誤差修正を行なう必要がある。地磁気や地球電層論の強弱、さらに太陽面のフレアバーストなども考慮する必要がある。これらから受ける影響を加味しないと正確な射撃を行なうことは難しい。



第5使徒との戦闘では、放った加射電子の強力な電磁場の影響で陽電子の弾道が徐々に曲げられるという現象が発生した。

3 陽電子の加速~発射

ボジトロンライフルに送られた陽電子は円環型の粒子加速器に封入、外部からの電力供給によって加速される。陽電子の質量は極めて軽いため、投入された電力はほとんど損失することはない。そして最終速度にまで達すると銃身内の最終加速器に送られ、ここで弾道コースの微調整が行なわれる。発射された陽電子の速度は理論上では光速に匹敵するほどの凄まじいものである。



最終的な発射タイミング微調整はバレットライフルに委ねられている。外部からの遠隔操作では微妙な調整が難しいのだろう。

■ボジトロン 20X ライフル

EVA専用ボジトロンライフルにエクステンションバレルと望遠スコープを装備した改修モデル。また陽電子の貯蔵ユニットを改裝したマガジンにすることで連続発射が可能になっている。



■大出力ボジトロンライフル改

ボジトロンナイバーライフルをスタンドアロン型に改裝。外部電源との接続なしに運用が可能となり、取り回し性が格段に向上した反面、火力面では原型機よりもやや劣っている。



■EVA専用ボジトロンライフル(特殊円環型 試作20型)

NERVが独自に開発したEVA専用装備。上下に分割された銃尾の間に筒を入れ、抱え込むような形で使用する。銃尾に見えるふたつの円形パーツは小型加速器であり、これを用いて最終的な陽電子の加速を行なう。比較的取り回しに優れるため、最も多用されたボジトロンライフルである。



E

エクストラシート
xtra Sheet

用語辞典

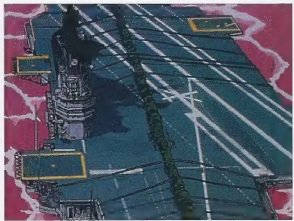
GLOSSARY

Sheet

11

空母

航空機を搭載、運用できる航空母艦。世界各地に航空戦力を投入可能な戦略兵器としての性格を持ち、現代では海上戦力の主力である。第8話において、EVA試号機の移送と護衛のため、四連軍太平洋艦隊に所属する5隻が運用された。その際の旗艦はニミッツ級原子力空母オーバー・ザ・レーンボウ。第6使徒がイェルサレム、使徒に抗す術を持たず、非常用ソケットを用いて試号機への電力供給運と使われた。オーバー・ザ・レーンボウも参照のこと。



第6話終結において、南極からロンギニスの楯を回収する運搬船として用いられた。その際に用いられた空母は、ニミッツ級の一世代前のミッドウェー級空母と思われる。

クライ空間

EVA初号機に取り込まれた碇シンジのサルベージ作業において、外部からの信号に初号機（シンジ）が反応しないことに対して赤木ツツコが発した言葉。第14使徒ゼルエルとの戦闘においてシンジ率40%を越えたシンジは、初号機に取り込まれてしまい、ヒトとしての姿を保てなくなってしまう。その際のサルベージ作業ステージ2の段階で自我境界がループ状に固定されてしまい、反応が返ってこなかったことを「発信信号がクライ空間に囚われた」と称した。なお、19世紀ドイツの数学者フェリックス・クラインの考案に、メビウスの輪の立体版といえる「クラインの壺」がある。これは内側を辿ると外側に、外側を辿ると内側に着くという内側と外側の区別がつかない壺をいう。

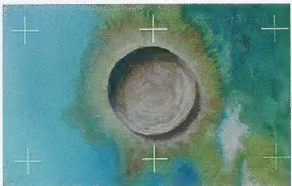


自我境界がループ状に固定されたため、全波形成を全方位に放射するが、発信信号がクライ空間に囚われているため効果はなく、シンジのサルベージは失敗してしまう。

クレーター

物体の爆発や衝突によってできる巨大な穴。狭義では隕石孔の事を指すが、広義的には火山活動や爆発事故、地震や弾撃などによってできたものも含む。使徒の攻撃や自爆のほか四連軍の兵器による使徒への攻撃などで、巨大なク

レーターがいくつも作られている。なお、第7使徒イスラフェルに用いられたクレーターによって作られたクレーターは第2芦ノ湖と称されているようだ。



第10使徒サハワエルは衛星軌道上から身体の一部を爆弾として落下させた。落下エネルギーとA.T.フィールドの相乗効果によって攻撃は、巨大なクレーターを作り上げるほどの破壊力を持つ。

クローン

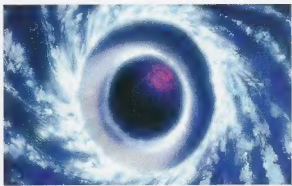
遺伝情報と同じである個体や細胞、組織及びその集合のことで、主に生体の複製を指す。ハーバーD・ウェンバーク、栄業生によって増殖した細胞集団を指す生物学用語として定義した。NERVのもつクローン技術は極めて高度だと考えられる。生体細胞によって構成されているEVAは、南極で発見されたアダムと称される生命のコピーとされ、NERV本部セントラルドグマのL.C.L.プラント内にあるダミアゴのコアとなる鏡波レイの体内もクローンの産物であろう。彼女は誰の体内のクローンか定かではないが、碇シンジと赤木ナオコはレイに碇ユエの面影を感じ取っていた。



ダミアシステムのコアとなる部分である鏡波レイのパーツ。ただし、肉体は複製できても魂と呼べるものはコピーできなかったようだ。

黒き月

冬月による人類の生命の源たるリリスの卵のことであるという。EVA初号機とEVAシリーズによるサードインパクトの発生の際に、NERV本部のあるジオフロントそのものが黒き月である事が判明した。本部施設はこの内部に構築されていたようだが、そのほかの内部構造は不明。



サードインパクトの衝撃によって表面が剥離され、地表を露出した。その後リリスによって用いられ、ガフの設置の眼が開く。

グロック17

オーストリアの銃器メーカー、グロック社が開発した自動式拳銃。オーストラリア軍に制式拳銃として採用されたP180の民間用モデルとして1985年に販売された。弾薬は9mmパラベラムで、弾薬数は17発。なお、名称にある17は弾薬数からと、製造の際に取得したパテント数からとも言われている。オーストリアのほかにFBIやインド、スウェーデン、フィンランドなどで広く採用されている軍用拳銃のひとつ。NERVが制式採用しており、戦略自衛隊の襲撃時に日向マコトが用いて応戦している。その際、青葉シゲルが伊吹マヤに手渡したものの、彼女は最後まで使わなかった。

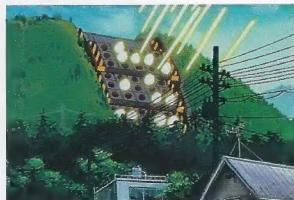


マコトの机に横置かれていたグロック17と予備のマガジン。自兵銃に向け銃のスタイクを引き、銃弾を連射した直後に戦略自衛隊が突入していった。

け

迎撃システム

第3新東京市及びその周辺の対使徒迎撃システム。構築された建築物の中には、対使徒戦を想定したミサイル等の支援兵器だけでなく、EVAの使用する各種武器やアンビカル・ケーブル接続用のコネクタなど、EVAをサポートする様々な兵器が格納されている。ただし、通常兵器で使徒に損害を与えることとはできず、支援兵器はほん程度程度の効果しか持たない。あくまでも、EVAとの連携によって使徒を迎え撃つためのシステムである。また、戦闘の際に第3新東京市中央部のビル群は地中のジオフロントに収納（戦闘形態への移行）される仕組みになっている。なお、第6話四話の人類補完委員会特別召集会議の席では、第4使徒シャムシエル戦での第3新東京市の戦闘形態への移行は96.8%、地対空迎撃システムの稼働率は48.2%（第5話のオレラータの報告では48%）と報告されている。その後の第5使徒ツルミル戦では多大な損害を被っており、第7使徒イスラフェルの出現時の迎撃システム復旧率はわずか26%。実戦における稼働率は0%と深刻なものであった。そのためイスラフェルの迎撃は第3新東京市ではなく、使徒の綾河湾上陸に合わせたEVA2体が打って出ている。



第3新東京市へ侵襲する使徒に対し、山腹のミサイル、ビルやロケットに構築した迎撃システムで対空攻撃を仕掛ける。

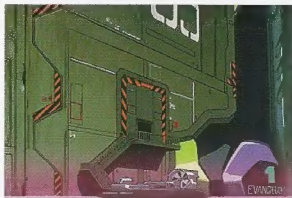
ケイジ

EVAが格納されている施設。待機中のEVA各機は、複数の

E

エクストラシート
xtra Sheet

拘束員によってゲージ内のアンビカル・ブリッジに固定される。L.C.L.と思われる液体に胸部まで浸されて格納されている。なお、よく使用されている格納施設は第7ゲージが多い。



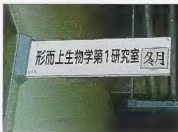
ゲージ内はL.C.L.と思われる液体で満たされ、EVAは拘束員によりゲージのアンビカル・ブリッジに固定されている。

形而上生物学

冬月コウゾウがNERV（ゲヒルン）の一員になる前に、京都大学で専攻していた学問。人間の精神世界に関する考察を通して、人類の進化過程などを研究するのが目的と思われるが、その詳細は不明である。なお、形而上学とは、古代ギリシアの哲学者アリストテレスの著作から名付けられた哲学の一分野であり、神や世界などを研究対象とし、「自然界の後の霊」を意味する。

形而上生物学第1研究室

1999年当時に冬月コウゾウが、京都大学で教授として教鞭を執っていた形而上生物学の研究室。研究室のプレートには冬月の姓が記載された紙が貼られている。彼はここで、生物学上の優秀な学生であった碓岡ユイと出会う。



京都大学にある冬月の研究室。冬月の名が紙で貼っており、着任して間もないのが、彼の研究室なのかは不明。

警備車

NERVが使用しているの警備用の車両。なお、戦線自衛隊も同様の車種に改良を施し、指揮車として利用している。



戦線自衛隊の襲撃によって対戦車両を撃ち込まれ、破壊されてしまった。

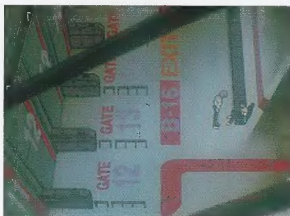
ゲイン

電気工学用語。電気、電子回路等における入力と出力の比のこと。利得（りくと）ともいう。出力の方が入力より小さい場合もゲインと呼ばれるが、一般的には増幅器（増幅

回路）等によって入力より大きな出力を得ることを指す。EVA機は基本的にアンビカル・ケーブルを介して電力を補給するが、緊急時のための予備の内部電源をもっており、アンビカル・ケーブルが断線した場合に切り替わる。その際の活動限界は、フルで1分、ゲインを利用して最大5分となる。

GATE13

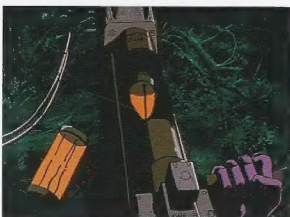
NERV本部施設のゲート。第貳拾四話において、EVA汎号機のハークニクステストを終えた清カヲルが使用した。また、第拾拾話に登場したゲートと同じものであり、NERV各職員に配布されている個別のIDカード（セキュリティカード兼用）をスリットに通す事により開閉する。



家に帰りたくない碓岡ユイは、ゲート前のベンチに座り、カヲルの帰りを待っていた。

撃鉄

銃の撃発装置で、弾丸の火薬を点火させるために雷管を強打する部分のこと。うちがねともいう。第六話のヤシマ作戦において、ポジットロンスナイパーライフルを撃つ際、日向マコトが「撃鉄おせ」と指示し、EVA号機の碓岡ユイは撃鉄をおこしてヒューズ管を破壊した。



ポジットロンスナイパーライフルは高出力の陽電子砲のため、実弾の代わりに巨大なヒューズ管を破壊する仕組みとなっている。

結界

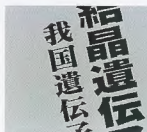
NERV本部地下のターミナルドグマへ侵襲した第17使徒タプリス。その際に彼が開発したA.T.フィールドを葛城ミサトがこう称した。光波、電磁波、粒子をも遮断し、外部からモニターすることすら不可能とする強力なA.T.フィールドは、まさに結界ともいえる。なお、結界とは、清浄な領域（聖域）と世俗（不浄）の領域とを分ける区切り、境界線のことを意味する仏教用語。一般的なものとしては神社や寺院の高麗や注連縄、欄や扉などがある。また、村の境界に設置されていた道祖神や庚申塔などの石仏も結界のひとつ。



結界のこととA.T.フィールドは、タプリスを追うEVA汎号機の認知までも不可能にしてしまう。

「結晶遺伝子」論

第12使徒レリエルの形成するディラックの海に囚われたEVA汎号機。そのとき死に瀕して隣船とした碓岡ユイの内面世界に出てくる新聞（もしくは雑誌）の見出しのひとつ。見出しには「我ら遺伝子学会の誇り」とある。詳細は不明だが、A.G.ケアンズ・ミスが著した「遺伝的果取り—生命の鉱物起源説」(Genetic Takeover)の中に「地球上に最初が発生した生命体は鉱物の結晶であった」という説がある。



この学説と、鉱物に似た表面を持つ第5使徒ラミエルなど、後述の遺伝子や構成素材に直接関係があるのかは不明。

決戦、第3新東京市

第六話のサブタイトル。英文タイトルは「Rei II」。第伍話のサブタイトル「レイ、心のむこうに」の英文タイトル「Rei I」から続くもので、第伍話と同様に綾波レイの存在を主軸とした物語であることを示している。



「綾波はなぜこれに乗るの？」ヤシマ作戦の決行前、そう問いかけるシンジに対し、レイは「絆だから」と答えている。

ゲノム

ゲノムは、生物の遺伝子の全体、ある生物をその生物足らしめるのに必要な遺伝情報を指すドイツ語。生物の染色体の基本数となる染色体の組で、通常一個体（二倍体）の体細胞は二組ふたつのゲノムを持つ。なお、ヒトゲノムには約32億個の塩基配列（塩基対）がある。